

六甲カトリック教会報

2005.12 No.408

12月のお知らせ

	教会暦	教会行事
2	金	初金 7:00、10:00 ミサ 婦人会例会
3	土	聖フランシスコ・ザビエル司祭
4	日	待降節第2主日 宣教地司祭育成の日 13:00 結婚セミナークリスマス会
7	水	聖アンブロジオ司教教会博士
8	木	無原罪の聖マリア(六甲教会の守護者) 7:00 10:00 ミサ
9	金	10:00 回心の集い(祈りと赦しの秘跡)
11	日	待降節第3主日 10:15 小教区評議会 14:00 メサイヤ・コンサート
13	火	聖ルチアおとめ殉教者
14	水	聖ヨハネ(十字架の)司祭教会博士
16	金	17:20 神戸市民クリスマス(神戸栄光教会)
17	土	14:30 教会学校終業式・クリスマス会
18	日	待降節第4主日 12:30 中高生会クリスマスコンサート
24	土	クリスマス・イブ 17:00(子供と共に) 19:00 21:00 ミサ 17:00 ミサ(海星病院聖堂)
25	日	主の降誕 7:00 9:00 11:00 ミサ
26	月	聖ステファノ殉教者 11:00 ベビーとママの集い
27	火	聖ヨハネ使徒福音記者
28	水	幼子殉教者
29	木	主の降誕第5日
30	金	聖家族
31	土	主の降誕第7日 10:00 感謝の集い(祈りと聖体拝領)

“訪れ”

日常生活は“訪れ”の連続です。待降節の始まりも天使の訪れ、聖母マリアのエリザベトの訪問と続きます。そしてその時には言葉の交換が行われます。言葉は人々をつなぐものです。言葉のやりとりでコミュニケーションを図り、社会や共同体、家庭の中の人間関係を作っていきます。

漢字の好きな私は“訪れ”という文字がとても意味深く思えます。言葉がこの方よりあの方へ、あちらからこちらに行き交うのです。人と人が出会い言葉を交換する、という重要な“訪れ”という意味を見出せます。

様々な“訪れ”を感じられる待降節のこの時期に、言葉の扱いがどうなっているか、日々言葉をどのように使っているかを振り返り、言葉の大切さを見直してみましょう。

イエスの誕生は、神と人が具体的に結んだ関係です。人間性に美しいものが宿り、緊張感を持って、神聖なものとなり、その“訪れ”は神のものとなります。マリアに対する天使のお告げ、エリザベトを訪問するマリアの行動、その“訪れ”はいつもとは質の違う、生活が明らかに変わってしまうようなものでした。その結果、

イエスの誕生があります。

私達の中の美しいものに働いて、神さまは私達の生活に訪れて下さいます。毎日の生活の中の“訪れ”、それに気づいているでしょうか？心を神に向けて、その“訪れ”に対し準備ができていますでしょうか？思いを込め、言葉を尽くし、神の“訪れ”を待ち望む祈りをしていますでしょうか？

神に向うと同時に、私たちは社会の中で生活をしています。そして、社会的な役割を担っています。その共同体の中にも常に“訪れ”はやってきます。そして、お互いに関係を築くことで、社会は成り立っているのです。人は互いに手助けをし、協力し、支えあい、お互いの関係を完成していくものです。

日々の小さな“訪れ”、昨日とは違う自分で共同体へ参加する“訪れ”、朝とは少し違う自分となって家へ戻ってくる“訪れ”の中で、自分の思いを言葉として、周囲の人に伝えているでしょうか？それは皆さんがイエスの“訪れ”を告げる宣教となっているでしょうか？GOSPEL のこもった GOOD NEWS、まさに福音と呼べる言葉の伝え主としての役割を果たしているでしょうか？

一年のうちで、もっとも素晴らしいニュースが届くこのクリスマスを前に、静かに祈り、人々を“訪れ”しましょう。

God bless you.

祈りのうちに

バレンタイン・デ・スーザ S.J.

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

「男の料理教室」12月21日(水)10時から
「男の料理教室」は今後、毎回ゲストをご招待することにしました。まず11月は婦人会から3名おいでいただき男どもの腕前を披露。一緒に会食して幸い好評(?)を得ました。次回からもひきつづき教会内のお客さまを順次ご招待することにしています。乞うご期待。

黙想会

11月20日に壮年会の黙想会が開かれました。ザビエルハウスに20名ほどが会して、バレンタイン神父さまの2回に分けての講話を聴き、聖書を読んで黙想に専念しました。神父さまのお話は「常に祈りを欠かさないこと、すべての行いは祈りから発する」との趣旨で新・旧約聖書の箇所を豊富に引用しながら、また「力は人に仕えるためにあるもの」、「優しさの中に人はつくられる」など実体験をまじえながらお話下さいました。聴講した一同は各自の祈りの生活は如何になどと自問しつつ、あとの懇親会では安芸神父様も加わりなごやかなつどいとなりました。

👉 婦人会

< 12月行事 >

2日(金) 初金 ミサ 10:00

例会 11:00~

お話 小百合児童館長 シスター松本卓子

昼食 12:00~

カレー当番 中4・中5(9時集合)

よろしく願います。

8日(木) 無原罪のマリア ミサ 10:00

9日(金) 回心の集い 10:00

十字架の道行き

< 12月掃除当番 >

2日(金) 西1、西2

9日(金) 中4、中5

16日(金) 西3、西4、西5

23日(金) 東1、東2

時間はいずれも9:00からです。

よろしく願います。

バザーには、たくさんの方々のお手伝いを頂き、無事、終えることができました。本当に感謝しております。

📖青年会

- ・定例会
12月11日(日)12:30~14:00 於：第3会議室
内容：聖書研究(指導：高山神父)
- 12月25日(日)
定例会はお休み
初めての方も是非気軽に参加下さい！！
- ・クリスマスコンサート(予定)
12月25日(日) 於：釜ヶ崎
中高生会と合同で行う予定です。

📖三日月会

12月はお休みです。
皆様、よいクリスマスと新年をお迎え下さい。

📖社会活動部

- 12月2日(金)13:00~(婦人会例会後)
社会活動部連絡会
バザーの報告他、討議事項が多数あります。
関係の方は必ずご出席下さい。又興味をお持ちの方もご遠慮なく、ご参加下さい。
- 12月7日(水)10:00~ 手芸の集まり
今年最後の集いとなります。多数ご参加下さい。
- 12月10日(土)9:30~ 炊き出し
教会台所で準備の上、用意出来次第、小野浜公園に移動致します。2ヶ月ぶりの担当です。ご協力を宜しくお願い致します。
- 12月18日(日)9時のミサ後~
手作り&喫茶コーナー
是非イグナチオホールにお立ち寄り下さい。
- 12月23日(金)14:00~ 御握り作り
須磨方面夜回りの為に作ります。年末のお忙しい時ですが、ご協力をお願い致します。

<神戸社会活動センターより>

本年も恒例の越年活動が12月28日~1月5日予定されております。年末年始のご予定に組み入れて頂き、是非共ご協力をお願い致します。お子様連れも大歓迎です。親子で関わる良い経験になるかと思えます。詳細が決まれば、追って御知らせ致します。掲示板にも掲げますので、ご覧下さい。

<4日の日曜日より長編カラーアニメ作品のチケット販売を致します>

「NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘」
日時 2006年1月7日(土)
11時、14時、16時、18時上映
於 兵庫県民会館 9Fホール
主催「NAGASAKI 1945」神戸上映を成功させる会
シナピス神戸で応援する事になりました。
とても良い作品のようです。ご家族で“平和”を話し合う材料にして頂ければと思います。是非お子様連れでご覧下さい。

<物資寄付の御願い>

釜ヶ崎と社会活動センターのために物資を集めております。
御願いたい物は、毛布、ジャンパー、肌着(新品)、靴下(新品)等の衣類、タオル、石鹸、歯ブラシ、洗剤、カイロ、乾電池、等日用雑貨です。バザーに引き続きで申し訳ない事で御座いますが、イグナチオホールに箱を準備致しておりますので、ご協力を宜しくお願い致します。

📖典礼部

<11月19日典礼部例会>

7月典礼勉強会で出た、検討項目について四旬節には祭壇を花で飾ることは禁じられる。(No305) お花担当者に連絡済み
共同祈願を各会に依頼する。(テーマ、期間は典礼部で決める)
クリスマス・新年の典礼当番。聖堂入り口に張り出しますので、ご確認ください。

<11月19日10:00~12:00

聖体奉仕者の集い>

指導：バレンタイン神父様 参加者 20人

イグナチオ教会の例を聞き、六甲教会について考えました。
ミサの20分まえには来て、祈りの準備を大切にしてほしい。準備をすると、信者が受け入れやすい。自分の当番のときは早く来るが、当番でないときはミサに遅れる人がいる。奉仕の精神が培われていない。個人個人のご聖体に対する崇敬、聖櫃におられるイエス様に対する私たち

の態度、尊敬を見直す。

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして捧げなさい。これこそあなたがたのなすべき礼拝です。」(ローマ 12:1) 最高の礼拝の場がごミサです。心を清めてもらい集会の祈りを唱え、み言葉を聞いてご聖体を受け、社会に戻って行く準備をします。

祝福は司祭が与えるが、信徒も神に願うことはできる。「あなたの上に祝福がありますように」と願ってください。

質問・意見など

- ・ご聖体を落としたとき、自分の責任でその場でいただく。
- ・洗礼を受けていない人がご聖体を受けて、返されたときも自分でいただく。「洗礼を受けておられますか？」と尋ねることも必要です。
- ・聖体奉仕者自身が豊かになるように、色々なごミサを体験した方がよい。

厳しい言葉がありましたが、ご聖体に奉仕しているという意識を新たにし、ゆとりのある準備をして奉仕に臨んでいきたいと思いました。

来年も、春に黙想会、秋に集いを行います。聖体奉仕の方はみなさんご参加をお願いします。

📣 広報部

今年もクリスマスの御ミサの時に配ります「クリスマス特別号」の制作をしています。ご友人へのクリスマス・メッセージにお使いの方は、広報部にご連絡下さい。

ピース9 勉強会
一緒に考えてみませんか？

子や孫のいのちを守る
憲法とは？

日時 12月11日(日)午後1時~3時
会場 六甲教会 第1,2会議室
講師 上杉 聡氏 関西大学文学部講師
参加費 300円 (資料代)
主催 六甲地域ピース9有志
連絡先 ピース9の会「さくら」長瀬三千子

📖 図書紹介

『イエズス会の歴史』

ウイリアム・V・バンガード 著
上智大学中世思想研究所監修

本書は、725 ページからなる大冊である。創立者イグナティウスから 20 世紀末までが 8 章と追補に分けて書かれている。この 9 章立ての内容は、イエズス会の特徴である、学校教育、海外宣教、神学教育をそれぞれの時代の総長と国別に詳細に説明している。これまでのイエズス会史では創立者の時代にやや重点が置かれていたが、本書は、国家と啓蒙主義からの挑戦の時代と、再興後から 20 世紀末までの時代に多くのページが使われている。イエズス会解散に至るまでの百年間と、再興直後の詳細な記述は、とても興味深い。著者がアメリカのイエズス会員の研究者であるため、アメリカにおけるイエ

ズス会の活動の記述が多く書かれている。知的驚嘆と知的好奇心を満足させてくれる。日本に関する記述の中で、ベドロ・アルペ総長に多くのページがさかれている。まだ直接アルペ神父から修練を受けた神父様方や洗礼を受けた信徒が存命中であることを思うとき、日本の教会がどれほど恵まれているかがわかる。また、六甲教会では、かつてスペイン人、ハンガリー人の神父様をはじめ、現在ではアメリカ人、インド人、ベトナム生まれの日本人、そしてアルペ神父の意思を引き継いだ修練長によって誕生した日本人の神父様方がお働きになっている存在意義も本書から汲み取ることができる。訳語で一つ気になることは、「イエズス会士」と「イエズス会員」が使われていることである。「イエズス会員」に統一したらよかったと思う。

(木鎌)

地区集会報告

10月23日(日) 御影山手地区集会

9時のミサ後16名が集まった(出席率36%)。16名中7名は前回欠席の方で集まりの輪が広がったととれる。

バレンタイン神父の「そよ風のように生きる」の中から数箇所を選んで神父様から約40分、話を聞いた。心の糧になったのではないかと思われる。又神父様の御考えの一端を知ることが出来、神父とのコミュニケーションをよくする上で有意義であったと思う。

提案として転入者の名前と顔を広く知って貰う為にミサで紹介する、又名簿についての意見、家庭集会の希望、男性の出席を増やす工夫が必要(16名中男3名であった)等が出た。助け合い等の意見は出なかった。

10月28日(金) 東灘区第9地区集会(場所:沖宅)

さわやかな秋晴れの午後、バレンタイン神父様と福田様は定刻より早めにご到着。参加者六名が揃うとすぐミサが始まりました。終了後は各々くつろいで雑談となりました。「このような集会は東京では?」と伺いますと、「不可能」との神父様のご返事。多数の外国人を含め、万といる信者数だといわれ、遠方からも何時間もかけて信者の集まる主日には、各国語のミサが9つあげられるそうです。六甲の静かなミサとは違う、異文化を持つ人たちが共に捧げるミサを思うと、改めてカトリックの大きさ、素晴らしさを感じました。3時半にお二人をお送りした後は6時頃まで話に花が咲きました。

平素は接する機会も殆ど無く、横のつながりが希薄な同じ地区の私達ですが、会えば直ちに打ち溶け合えるという実感を得ています。次回もお一人でも多くの方のご参加をお待ちします。(沖)

11月3日(木) 第10・11・12地区合同地区会(場所:六甲学院)

今回はご家族の方2名と、4才の息子さんと共に参加して下さった地区会員の方がいらっしゃって、全員で17名とコーディネーターが出席して下さいました。

秋の日ざしの明るい小聖堂で、梶山神父様司式の御ミサに与りました。神父様は、人はそれぞれの場所に住んでいても、どんな時も、いつも全ての人が神の御前にいるのです、とお話下さいました。昼食をいただきながらの話し合いは神父様のお話のとおり、共同体としての和やかな会になりました。初めての参加者もあり、ゆっくりですが、少しずつ進めていけると良いのではと思いました。

(藤原)

11月19日(土) 伯母野山地区会

伯母野山地区会は11月19日、六甲学院修道院で茶話会を持ちました。福田コーディネーターや、同じ伯母野山の住人である赤松神父様、お元気になられた92歳のメルシュさんと共に、15名が地区会の現状や自己紹介、六甲の今昔などを歓談しました。深まり行く秋の午後、アンチラドミニ特性のフルーツケーキや金子さんの草花、球根などをいただき、豊田さんの手でいつも美しく整えられた修道院のお庭を観て、あっという間の二時間でした。

来春は皆様のリクエストにより、「六甲のプロジェクトX」「(メルシュさんの故郷を訪ねて)斜塔のある街、デルブリュック」のビデオ鑑賞の予定です。「来年の事を言うと鬼が笑う」と言いますが、この計画には、天使たちもほほえんでくれるのでは...。(桐原)



教区生涯養成コース

今回の教区生涯養成コースは『危機や困難と向き合う』というテーマのもとに10月8～10日、北区道場町の神戸セミナーハウスで行われました。信仰の最も中心的アナウンスの書類が届いたのが参加申込締切直前。無駄になるかも知れないと思いつつ掲示板に掲載したところ、思いがけず若い方々から5人もの参加申込をいただきました。

参加した方々の感想文を読ませていただくと、私たち自身の、そして教会自身が直面している危機・困難について真剣に話し合いがもたれた様子がよく分かります。 養成部 山本

生涯養成に参加して

今回、生涯養成に参加して、“神様からメッセージをしっかりと受け取り、それを実行していくこと”ということ強く感じました。

また、私の心に一番残ったことは生涯養成の二日目に、「壁となっているものを分析する～教会の危機・困難の原因を探る」というテーマで分かち合いを行い、根本的な原因としてなにがあるのかを考えた時、私のグループでは、

愛されている確信がもてない

一人一人が本当の幸せを追求していない

ミサを味わっていない(神との出会いや神の愛、感動の記憶を忘れてしまっているのではないか)

分かち合えない(発言することによって傷つけあうことの恐れがあるのではないか)

以上のようなことが出ました。

これらを見て、私にはこの根本的な原因が全部当てはまりました。大失敗をしたり、人から非難されたりした時、神様に愛されていないような気がして、孤独感を時々感じます。またミサを受けていても、ただ受けることだけにこだわっていて、ミサの重要なことを忘れてしまっていることが度々あります。このようなことを分かち合いによって気づかせて頂きました。この気づきによって新たな行動ができるよう神の愛に応じ、神に従順でありたいと思います。

“人よ、何が善であり、主が何を前求めておられるかは、お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。(ミカ6:8)” (吉田)

大阪教区生涯養成コース報告

今回の集いは、まだマザーテレサが若かった頃から今に至るまでを綴ったビデオの鑑賞から始まりました。研修は、マザーテレサの生き方に習って「それでは、私達一人一人にはどのような生き方が求められているのか」ということを、分かち合いの中で探っていくことになりました。皆さんとの分かち合いの中で私自身が強く感じたのは、神体験の大切さ、神の御旨という本質的に大事なことを実践する中でぶつかるであろう壁を乗り越えること・取り去ることの必要性です。恐らく、神の御旨を受けた人の前には壁など存在しないのだと思います。しかし、今の私の前にはどれほど壁の多いことか！それは環境から現れるものだけでなく、自分の中に勝手に作ってしまっているものもあるのです。今回の分かち合いでは、そのことをはっきりと見せつけられたように思います。そしてこれからは、今まで以上に自分に求められる役割を意識して、それを実践していこうと思います。

最後に、今回一緒に分かち合いに参加した皆様、そしてこの貴重な研修を企画してくださった方々に心から感謝します。今回の研修で、生きることへの本質により近づけたように感じます。本当にありがとうございました。(卯野)

大阪教区生涯養成コースに参加して

今回のテーマは『危機や困難と向き合う』でした。はじめに、全員でマザーテレサの生涯を綴ったビデオを鑑賞しました。この中ではイエス・キリストが、聖書に書かれている様々な場面で、神の子でありながら人間として迷い、悩み、歎き、そして弱ささえも表したことについて触れられていました。そしてそれは、苦しさや孤独に苛まれながらも神への信頼を失うことなく信仰の道を歩んだマザーテレサの行き方そのものであったことを知りました。

そんなマザーテレサ、イエス・キリストの行き方と、自分がこれまで生きてきた中での危機や困難を振り返り、現在のカトリック教会の抱える問題について考えました。現代社会に生きる私たちキリスト者一人一人に、また教会に対して神さまは何をお望みなのか？ という事を各グループに分かれて話し合いました。一人一人に神さまが与えられている召命は違いますが、キリスト者として『本当に、キリストに出会っているのか？』ということが大事であるという意見があがりました。本当にキリストに出会っているなら、その喜びを知っているはずだし、神の愛がどんなモノであるかを知っているはずです。マザーテレサは、『愛することを知らずに神や愛を語る人がいますが、愛は行動を伴わねばなりません』と言われました。マザーテレサは、修道院から『外』へ飛び出し、貧しい人の為に仕えました。この『外』へ飛び出す事、『外』へ働きかける事が、今の『各』教会に、個人に必要な事ではないかと感じました。「この世界には様々な『壁』がある」と姫路教会の清川神父がお説教で言っておられました。「社会においても、自分の周りで『壁』を見つけたら、何がなんでもこの『壁』を叩き壊して欲しい」と言われました。清川神父が言っておられた『壁』を叩き壊す事がマザーテレサのおっしゃる『愛の実践』のヒントになりました。この世界に、わたしたちの周りにどんな『壁』がありますか？ それを考えることが『愛の実践』の始まりだと思いました。

今回の集いで、久しぶりに六甲教会から『外』へ出ました。たくさんの方と出会うことが出来ました。神さまが、イエス・キリストの名のもとに多くの人を呼び集めてくださった方々と、わかちあい、ミサ、寝食を通して『1つになる』事が出来たのが、大きな喜びでした。人と人が出会い、共同体が1つになり、『各』教会と教会が1つになる事ができたなら、神さまの望まれる世界に1歩近づける、キリスト教がこの世界を変える事が出来る力になれると思います。それがどんなに小さな力でも…。『わたしのしていることが大海の一滴に過ぎないことは知っています。でも、だからと言って目の前の人を助けるのをやめるわけにはいきません。その一滴一滴が大海をつくっているのですから』 (久保)

.....

11月4日「祈りの道場」

祈りの道場に参加して

今回の黙想は、主題が「イエスの弟子になること」であり、聖書のいくつかの箇所からイエスの弟子の特徴や弟子との関係を学び、イエスが求められた弟子の本質を問い、静かに自分を深く省みるひと時となりました。

大司教様のお話のなかで、イエスの弟子たちは、全てを棄ててイエスに従い、寝食を共にしてみ心に触れ、弟子の資質を備えていったとお聞きしました。今、「そばに置かれた者」である私たちは、聖書に記されたみ言葉、表された人々への接し方、示されたご姿勢を通して、ひたすらにイエスのみ心を見つけていきたいと願います。信仰の浅い私にとって、お話の内容が豊富でわかりやすく、本当に大事なことは何かははっきりしてきたように思います。イエスが望まれた弟子の姿に近づけるように、歩む道筋と力を与えていただいた黙想会でした。

ご指導に当たられた池長大司教様、そして養成部の皆様に心より感謝を申し上げます。 (平田)



七五三の祝福式（11月13日）

11月13日、桜井神父の司式による七五三ミサに与らせていただきました。七五三は、近隣の幼稚園・児童館・小学校のこどもたちも参加して30名近くにのぼり、とても活気あふれるミサでした。

福音書の朗読はマタイ25章の「タラントンの譬え」でした。こどもたちがそれぞれの得意なものを活かして、神から預かったものを倍にして、あるいは何倍にもして、社会に人々に返して行って欲しいと、切にそう願っております。
(恵依ちゃんの父 成明・母 裕子)

桜井神父様に御メダイを頂き、安心した様な穏やかな息子の顔が印象的でした。神様のお側で皆様に見守られ育ってきて、また育つてゆく彼を実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。この恵みに支えられ私も育児と育自に努めて参ります。
(健人くんの母 友希子)

息子が七五三の祝福を受けるため、朝から晴れ着を着せ、その姿をみてうれしい反面、一時間御ミサに座ってられるかと言う不安でいっぱいでした。初めは物珍しさに着物を喜んでいた息子も時間がたつにつれ、草履を脱ぎ、床に座り飽を食べたいといい、やはり予想的中といった感じでした。

しかし、御ミサの終わりに戴いたメダイをじっとみていた息子は「ママ、ここにだれがいるの?」と聞いてきました。私はとっさに「神父様に聞いてみたら」と言ったら、そばにいらしたシスターに「誰がいるの?」と聞きました。シスターはやさしく「マリア様がいらっしゃるのよ」と教えてくださり、息子は「マリア様か」と嬉しそうに、首にメダイをかけ、その後も一日中メダイを首に掛けて過ごしておりました。いつも、御ミサもただその時間を参加するだけといった感じの息子が一歩神様に近づいたと思え、感謝した一日でした。
(康平くんの母 マリ子)



チャリティーバザー（11月13日）

11月13日(日)、今年度のチャリティーバザー（テーマ：愛をもって互いに仕えなさい）が行われました。

お蔭様で好天に恵まれ、大変な盛況でした。収益金は昨年実績を僅かに上回る金額となりました。これも連日遅くまで準備していただいた皆様方、そして当日お手伝いいただいた皆様方が『愛をもって互いに仕え』られた賜物に他なりません。

なお、収益金の配布先は12月11日(日)に開催されます小教区評議会で決定されます。

以上ご報告申し上げます。

（実行委員長 壮年会 高山）

11月13日、教会学校のバザーがひらかれました。

わたしたち二年生は、その日のためにビーズのブローチを作りました。クロス、サンタクロース、ツリー、ハート、羽、星、色とりどりにきれいなブローチをみんなで作りあげました。当日は、朝からよい天気!!ウキウキ、ドキドキ!!たくさんお人がおいでになり、教会学校の手作りのお店も大せいきょう。わたしもかわいいストラップを買いました。それからキャンディのくつ下をかごいっぱい入れてお友だちと売り子をしました。たくさんの人たちを買っていただいたのでとてもうれしかったです。作った人も、買った人もみんなしあわせなうれしい気もちになれるチャリティーバザーは、すごいなあと思います。来年のバザーも今からとても楽しみです。

（愛梨）

えきべんやみたいにしてうひんをうってたのしかったです。おきゃくさんに「あとでね」や「いらぬい」て、ちょっとかなしかったです。

また、あるといいなと、おもいました。

（誠）

きゃんでいれいがはやくうれたり、ぼきんをしたときふあいるをもらいました。また、いきたいです。たべたものはやきとりとやきそばとわたがしをたべました。すごくおいしかったです。

（まどか）

わたしは、3ねんせいがつくったあめちゃんのびんをうりあるきました。「あめちゃんびん100円で、うってまーす。」とあってあるきました。するとおばあさんたちが、2～3コ買ってくれました。ぜんぶで15コくらいはうれたとおもいます。またうりたいです。どうしてかというたのしかったからです。

（ほのか）

クリスマス・コンサート

2005年12月11日(日) 開演 14:00

六甲カトリック教会 大聖堂

出演 声楽アンサンブル カメラータ神戸

ゆりかごの会

六甲カトリック教会混声合唱団・一般有志

3つのクリスマス

希望のクリスマス

祖国ベトナムでは、戦争による家族の離散、殺戮による人の壊滅、戦後も共産主義による宗教の迫害、家庭の価値観の破壊など、毎日深い絶望の淵にありました。それでも毎年クリスマスを迎えるたび、新たに希望がわきました。「いつかこの国にもキリストの誕生がある」のだと。それは社会の希望でした。パスカルによれば、「ひとりの人が生まれることは神の人類に対する希望の印」です。キリストの誕生はわれわれ人類の希望の印です。

信じるクリスマス

何を信じればよいのか？ そんな苦しみの増す現代社会にあっても、必ず希望と未来があります。本来キリストは光なのですから。しかしながら人はこの事実を受け入れようとしません。人間側から信じるクリスマス。キリストの誕生を信じ、痛みのアとの栄光を信じ、自分自身も生まれ変わることを信じていくことは人に生きる力を与えます。

愛のクリスマス

パウロは言います。「最後には希望でも信仰でもなく、愛だけが残る」と。人間が希望を捨てず、信じて、そこに生み出すものも愛でなくてはなりません。苦しみや絶望の暗闇にいて生まれ変わろうとしている人が必要とするもの、その人が生まれ変わることでできる社会が必要とするもの、それは愛です。すでに 2006 回目のクリスマスです。イベントではない、「愛」そのものを表現できるクリスマスが大切です。

「信・望・愛」のどのクリスマスを迎えるかは、人によって、そのおかれている環境によって違います。またそれに順序があるわけでもありません。あなたは今年のクリスマス、イエス様に希望・信仰・愛のどれをお与えくださるよう祈りますか？

高山親神父

待降節の集いと大晦日感謝の集い

信徒が司式して祈る集いとして、クリスマスを迎える準備と今年一年をかえりみて感謝を捧げる集いを 12 月に行いたいと思います。

- 1) 12 月 9 日(金) 10:00 から、クリスマスを迎える準備のために一緒に「ゆるしの秘蹟」を受けましょう。4 人の司祭に準備していただいて一緒に回心の集会祭儀をいたします。回心の準備とともに十字架の道行きをともに歩み、クリスマスを待つ準備としたいと思います。
- 2) 12 月 31 日(土) 10:00 から今年一年を振り返って感謝の集いをしたいと思います。大晦日で忙しい時ですが、一緒に静かな時を過ごし賛美と感謝の時をもちたいと思います。(藤原)

教会報1月号の発行は、1月1日(日)です。
編集会議は 12 月 25 日(日)です。
記事原稿は、12 月 18 日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父
編 集 広 報 部